# 医療的ケア児が通う地域の保育園・学校等への地域看護連携による支援体制整備

亀井 智泉 氏

信州大学医学部新生児学・療育学講座　特任助教

## 1.背景

地域の保育園や幼稚園、小中学校等に通う、医療的ケアの必要な児童が増加している。各自治体では、当該児童の通う保育園・学校等への看護師配置の努力をしているが担い手は不足している。市町村の医療的ケア支援委員会の中で学校看護師や保育園の看護師の話を聞くと、「ケアに関して確認したいことがあっても医師との連絡がとりにくい」「医師ではなく母の指示によるケアになりがち」「小学校から中学校に行く際に引継ぎがうまくできない」等の意見があった。本来は医師との連絡、成長を見越したケア、進級進学の際や、他施設サービスの利用にあたり、看護情報やケアの質の整備と管理など、看護師が地域リハビリテーション（地域全体での発達支援）のために果たしうる役割は大きい。特に、児の身体や発育発達の状況を、医学的知見をもとに把握し、それに基づいたアドボカシーができるのは、児の日々の生活に寄り添っている看護師ならではの役割である。

しかし、支援チームの他職種（保育士、教員等）に、看護職の専門性についての理解が浅く、単に「医療的ケアをする人」にとどまり、看護の専門性を生かしきれていない。また、主治医も多くは病院勤務であるため、地域生活支援の実際の様子は見聞きすることが少なく、医学的な課題について、看護師と共有し、看護師を後方支援するには至っていない。

支援の課題を解決するための支援会議には、看護師の多くは時間単位の雇用であるため出席しにくく、支援チームに健康管理や心身の成長を支援する医療・看護の視点から働きかけることが出来ない。そのため保護者の希望を中心に支援体制がつくられがちで、ケアの質も施設によって統一性がないのが現状である。

## 2.目的

・医療的ケア児の通う地域の保育園、市立小・中学校、放課後等デイサービス等の看護師の状況（勤務体制、業務内容、個々の支援チームの中での役割、当該児童支援の課題等）を把握、可視化する。

・医療的ケア児の通う施設の、受け入れ態勢や多職種協働における課題、当該要支援児と他児の関係を把握する。

・地域の児童発達支援センター等の経験豊富な看護師による巡回訪問により、看護師と施設がそれぞれ抱えている課題の解決に役に立つ後方支援や助言のあり方を探り、そのための「仕組み」を明らかにする。

## 3.研究方法

・長野県内複数の圏域で、市立小・中学校や保育園にて医療的ケアを行っている看護師・保育士、教職員等スタッフを対象にインタビュー実施

・定期的巡回訪問を行い、その記録を分析し、医療的ケア児への支援について当該施設の看護師と施設が抱えていた課題の解決に、地域の指導的看護師がどのようにかかわり、解決に働きかけることができたか、その際に必要なスキルとは何かを明らかにする。

## 4.倫理的配慮

信州大学医学部倫理委員会に諮る。